



子年にあたって

園長 山中 文

新年あけましておめでとうございます。

おだやかな新春を迎えられたことと存じます。本年もよろしく願いいたします。

本年は子年です。一部のねずみは、人間にとって少々やっかいな小動物でもありますが、ハムスターなどペットとして飼われているものもあります。あのミッキーマウスもねずみのキャラクターですね。人にとっては、なかなか身近な存在でもあるようです。

それだからでしょうか。ねずみを主人公にした絵本もたくさんありますね。

『ぐりとぐら』シリーズ（中川季枝子 文、山脇百合子 絵、福音館書店）は、本園でも人気の絵本です。青い帽子の‘ぐり’と赤い帽子の‘ぐら’の、双子の野ねずみの物語です。

『ねずみくんのチョコッキ』（なかえよしを 作、上野紀子 絵、ポプラ社）は、ねずみくんのチョコッキはどこまで伸びるのかしらと、ドキドキしながら読んだ覚えがあります。

日本の昔話には『ねずみの嫁入り』というものもありますね。さあ、お婿さんは誰になったでしょう？

もうすっかり大きくなった我が家の息子たちのお気に入りには『フレデリック』（レオ・レオニ 作・絵、谷川俊太郎 訳、好学社）でした。仲間がせっせと働いているときにぼーっとしている野ねずみのフレデリックのお話です。最後にフレデリックがちゃんと役割を果たしたところで、親子でにっこりしたものです。

1月7日は、本園の三学期始業式でした。始業式で、「今年は子年だから、お正月にいろんなねずみの絵本を読みました。だけど、『ぐりとぐら』の絵本が家になくて読めませんでした。残念。幼稚園の中で見つけたら教えてね」と子どもたちをお願いしたところ、ちょっと園外の仕事を済ませて帰ってくると、職員室の机の上に、『ぐりとぐら』の絵本と、折り紙に書いた、こんなお手紙が。

「えんちょうせんせいへ ぐりとぐらのえほん みつかりました」

年長さんです。可愛らしくて頼もしい子どもたちです。

その後保育室に行くと、年中さんや年少さんまでも「〇組さんにあるよ」と声をかけてくれたり、絵本コーナーにひっばって行ってくれたり、また絵本を読んで（？）くれたりしました。

子どもたちは、よく人の話を聞いてくれて、気にかけてくれます。そんな子どもたちの思いを大事にしたいなあと思いつつ、一方で、子どもたちに絵本さがしをお願いするのはなかなか面白いことだと気づきました。ご家庭でも、読み聞かせするだけでなく、「こんな絵本を読みたいのだけど」とつぶやいてみられてはいかがでしょう？！働きもの子どもたちがみつめてくれるかもしれません。絵本を中心にコミュニケーションが広がりますよ。

